

一般口演 | 広域保健医療・連携医療支援

一般口演3

広域保健医療・連携医療支援

2019年11月22日(金) 09:00 ～ 11:00 F会場 (国際会議場 3階中会議室302)

[2-F-1-07] 地域ネットワークシステムにおける職種別意識調査についての検討

○田浦 直太^{1,2,3}、松本 武浩^{1,2,3}、田平 由美²、楠田 千佳²、安野 桃子²、臼井 哲也¹、川崎 浩二³（1. 長崎大学病院 医療情報部, 2. あじさいネット拡充プロジェクト室, 3. 長崎大学病院 総合患者支援部）

キーワード：ICT network, Questionnaire survey, Difference between occupations

【目的】長崎県の地域ネットワークシステムあじさいネットはあらゆる医療職の参加の元に運用されている。使用目的も職種別に異なっており、職種別のニーズを理解しシステムの更新を行っていく必要がある。本研究では、あじさいネットユーザに対しアンケートによる意識調査を行い職種間相違、システム更新に伴う各職種の意識変化について検討を行う。

【方法】2018年10月あじさいネットに対する意識調査のためアンケートを行った（設問：①使用頻度、②薬剤確認、③入院経過確認、④診療情報確認、⑤患者へのメリット）。医師156名、薬剤師85名、看護師140名、計351名の回答を元に職種別にあじさいネットに対する意識の解析をおこなった。更に2014年のアンケート調査と比較しユーザの意識変化についても検討を行った。

【結果】使用頻度について検討したところ医師は、毎回利用するが9%、よく利用するが28%、薬剤師が12%、19%であったのに対し看護師は3%、11%と利用頻度が有意に低かった。さらに薬剤・入院経過・診療情報の確認についても医師・薬剤師と比較し有意に看護師の利用率が低かった。2014年のアンケートの結果と使用頻度について比較したところ、医師の毎回利用もしくはよく利用するが32%より37%（ $P<0.001$ ）、薬剤師が61%より30%（ $P=0.001$ ）、看護師は18%より12%と医師で有意に使用率が上昇するも薬剤師は有意に低下し看護師に有意差をなかった。患者メリット有では、医師が91%より93%、薬剤師が94%より93%、看護師が77%より90%と医師および薬剤師に有意差はなかったが看護師では有意な上昇をみとめた（ $P=0.004$ ）。

【考察】あじさいネットユーザに対し職種別の利用頻度を検討した結果、看護師が有意に低いも患者に対しての有用性を認めつつあり今後看護機能の拡充を検討する必要があると考えられた。

地域ネットワークシステムにおける職種別意識調査についての検討

田浦直太^{*1*2*3}、松本武浩^{*1*2*3}、
田平由美^{*2}、楠田千佳^{*2}、安野桃子^{*2}、臼井哲也^{*1}、川崎浩二^{*3}
*1 長崎大学病院 医療情報部、*2 あじさいネット拡充プロジェクト室、
*3 長崎大学病院 患者総合支援部

A study on the attitude survey of medical professionals in the regional network system

Naota Taura^{*1*2*3}, Takehiro Matsumoto^{*1*2*3}, Yumi Tabira^{*2}, Tika Kusuda^{*2}, Momoko Yasuno^{*2},
Tetsuya Usui^{*1}, Koji Kawasaki^{*3}.

*1 Department of Medical Informatics, Nagasaki University Graduate School of Biomedical Sciences,

*2 Ajisai-net project team,

*3 Nagasaki University Hospital, Medical Support Center

Abstract.

The regional network system Ajisai-net in Nagasaki is operated with the participation of all medical professionals. The intended use is also different in occupations, there is a need to continue doing the update of understanding of the job-specific needs system. In this study, consciousness survey by questionnaire is conducted for Ajisai-net users, and the difference between type of occupation and the change in consciousness of each occupation due to system update are examined. A questionnaire survey on Ajisai-net users was conducted in October 2018. Based on the responses of a total of 351 people, 156 doctors, 85 pharmacists, and 140 nurses, we analyzed the consciousness of the daisies for each occupations category. Results of studying the use frequency, a high rate using 9% in the physician, occasional use 28%, 12% by pharmacists, was 19%. In contrast, nurses were significantly low at 3% and 11%. As a result of examining the frequency of use by job type for hydrangea net users, nurses were significantly lower.

Keywords: ICT network, Questionnaire survey, Difference between occupations.

1. 【背景】

2004 年 11 月 15 日より地域ネットワークシステムあじさいネットが稼働開始し 15 年が経過し、2019 年 6 月現在で情報提供病院 37 施設、情報閲覧施設 353 施設と全国随一規模の ICT ネットワークへと発展している。

2. 【目的】

2014 年にあじさいネットユーザに対しあじさいネットに対する意識調査を行ったところ 159 名から回答をいただいた。その結果、36%のユーザの使用頻度が高く、残り 64%のユーザのうち 48%も時折使用すると結果であった。あじさいネットは医師・看護師・薬剤師などあらゆる医療職の参加の元に運用されている。しかし、業種別に見てみると医師および薬剤師においては 30%以上のユーザで使用頻度が高かったものの看護師においては 18%と低値であり業種間における使用頻度が異なった。また、あじさいネットの使用目的も職種別に異なっており、職種別のニーズを理解しシステムの更新を行っていく必要がある。本研究では、2018 年にあじさいネットユーザに対しアンケートによる意識調査を行い業種間相違、システム更新に伴う各職種の意識変化について検討を行う。

3. 【方法】

2018 年 10 月あじさいネットに対する意識調査のためユーザ 1,345 名に対しアンケート調査を配布した。設問内容は、あじさいネットによる日常診療の貢献として①使用頻度、②薬

剤の確認、③入院経過の確認、④診療情報の確認、⑤患者へのメリット、地域の貢献度として⑥地域完結型医療への貢献、⑦在宅医療への貢献、その他として⑧患者へのメリット、⑨医療費削減効果、⑩医療知識の向上とした。11 月末日までに医師 156 名、薬剤師 85 名、看護師 140 名、計 351 名 (26%)より回答があり、これらの回答を元に職種別にあじさいネットに対する意識の解析をおこなった。更に、2014 年のアンケート調査と比較しユーザの意識変化についても検討を行った。統計解析については、SPSS ver.20 を使用し χ^2 検定にて行った。

Table 1
職種別アンケート調査回答数

	2014 年調査		2018 年調査	
	人数	%	人数	%
Total	159		381	
医師	106	67	156	41
薬剤師	31	19	85	22
看護師	22	14	140	37

4. 【結果】

使用頻度について検討したところ医師は、毎回利用するが 9%、よく利用するが 28%、薬剤師が 12%、19%であったのに対し看護師は 3%、11%と利用頻度が有意に低かった ($P < 0.001$)。さらに薬剤・入院経過・診療情報の確認につ

いても医師・薬剤師と比較し有意に看護師の利用率が低かった($P= <0.001$)。患者メリット有りが医師 93%、薬剤師 93%、看護師 90%であり看護師が有意に低かった($P=0.006$)。2014 年に行ったアンケートの結果を使用頻度について比較したところ、医師の毎回利用もしくはよく利用するが 32%より 37%($P=<0.001$)、薬剤師が 61%より 30%($P=0.001$)、看護師は 18%より 12%と医師で有意に使用率の増加がみられるも、薬剤師は有意に低下し看護師に有意差を認めなかった。患者メリット有では、医師が 91%より 93%、薬剤師が 94%より 93%、看護師が 77%より 90%と医師および薬剤師に有意差はなかったが看護師では有意な上昇をみとめた($P=0.004$)。

Table 2
職業別使用頻度

	2014 年			2018 年		
	医師	薬剤師	看護師	医師	薬剤師	看護師
毎回利用する	13%	39%	9%	9%	12%	3%
よく使用する	19%	22%	9%	28%	19%	11%
たまに使用する	54%	31%	41%	36%	26%	27%
ほとんど利用しない	7%	6%	14%	8%	24%	23%
全く利用しない	7%	3%	27%	19%	19%	36%

Table 3
職業別有用性について

	2014 年			2018 年		
	医師	薬剤師	看護師	医師	薬剤師	看護師
有用である	68%	78%	5%	70%	73%	51%
やや有用である	23%	17%	73%	25%	21%	35%
あまり思わない	8%	6%	18%	2%	4%	10%
全く思わない	1%	0%	5%	2%	2%	4%

5. 【考察】

あじさいネットユーザに対し職種別の利用頻度を検討した結果、看護師が有意に低いも患者に対しての有用性を認めつつあり今後看護機能の拡充を検討する必要性があると考えられた。

6. 【謝辞】

本アンケート調査に御協力いただきましたあじさいネット会員の皆様には深謝の意を表する。